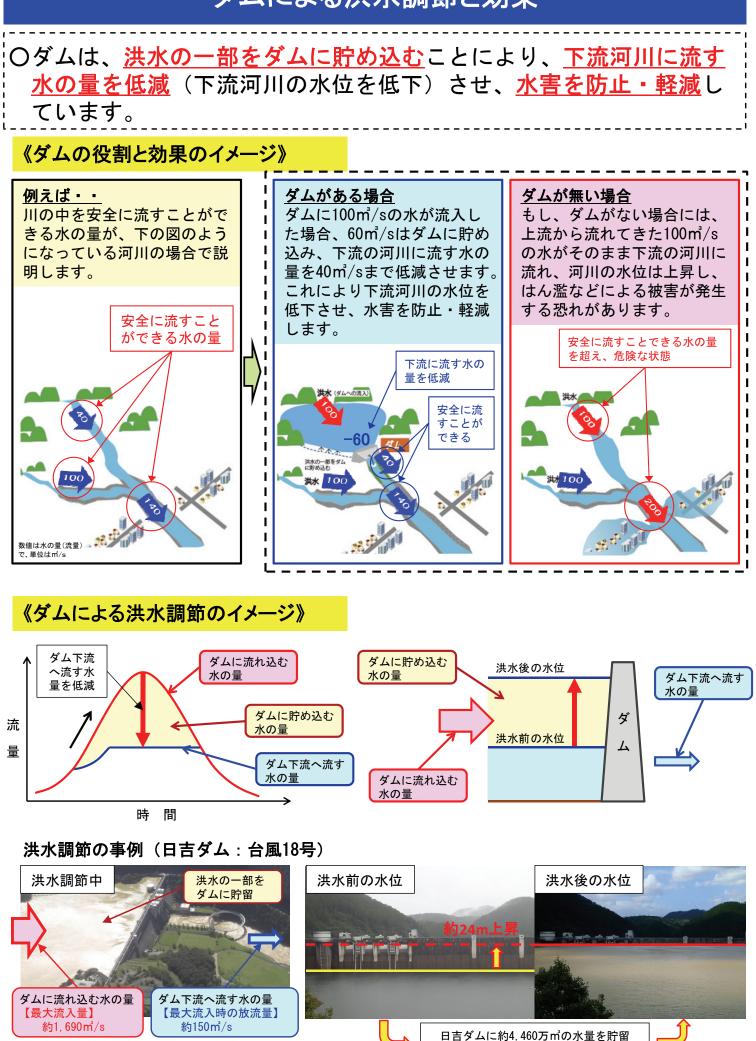


## ダムによる洪水調節と効果

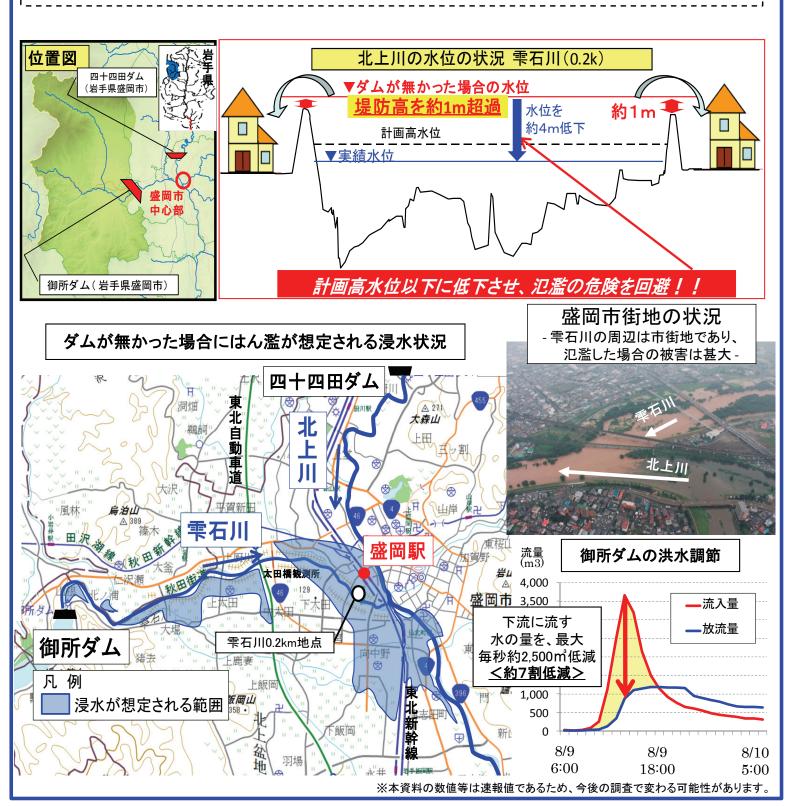


➡ 約1,540m<sup>2</sup>/s低減

日吉ダムに約4,460万mの水重を (東京ドーム約36杯分に相当) 御所ダム(東北地方整備局)の洪水調節効果:低気圧による出水

〇8月9日の豪雨では北上川の上流域において大規模な出水が発生。特に御所ダムにはこれまでの最大流入量の1.7倍となる3,733㎡/sが流入。
〇御所ダムおよび四十四田ダムの洪水調節等によって下流河川の水位低減を図り、下流の盛岡市(雫石川合流点付近)では避難判断水位以下の水位に抑え浸水被害を防止。
〇仮にダムが整備されていなければ、計画高水位を大きく上回る出水とな

り、盛岡市街地へのはん濫により、<u>約11,700戸の浸水、約5,500億円の</u> <u>被害が発生していたと推定</u>。



下流河川に被害を及ぼすおそれのある流木をダムにより捕捉 (御所ダム:低気圧による出水)

〇今回の出水により、<u>御所ダムの湖面には、平均的な年間捕捉量の約25</u> <u>倍に相当する約26,000㎡の流木やゴミ等が溜まった</u>。

○流木やゴミがそのままに河川に流れた場合、堤防等の河川管理施設に 損傷を与えたり、橋梁に引っ掛かることで<u>流下阻害</u>を起こしたりするおそ れがある。

Oダムにより流木を捕捉することで、洪水の軽減だけでなく、下流河川で の流木による被害の軽減にも貢献した。



■御所ダムの流木捕捉量

H19.9.17	H25.8.9	]
約3,600㎡	約26,000 m	k

今回の洪水では、平均的な年間捕捉量の約25倍の流木を捕捉(これまでの既往最大洪水であった平成19年9月洪水における捕捉量の約7倍)



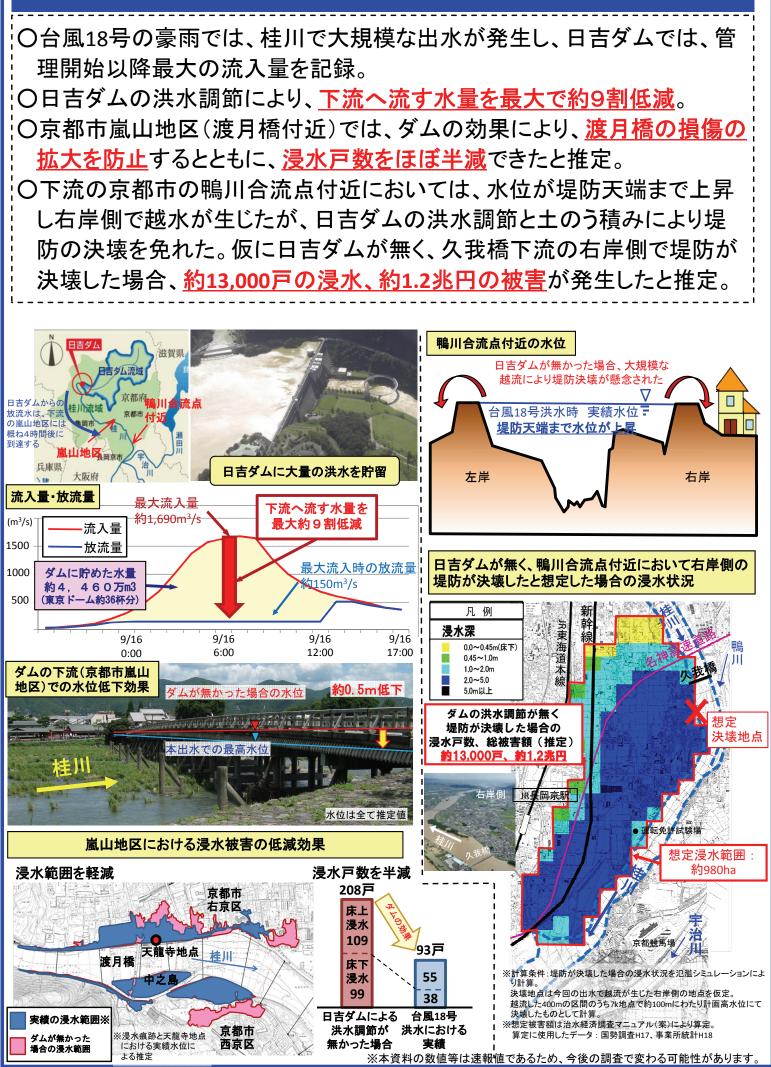
流木等により流失した橋梁

## 流木によって生じる被害



流木が詰まり流下阻害が生じている例

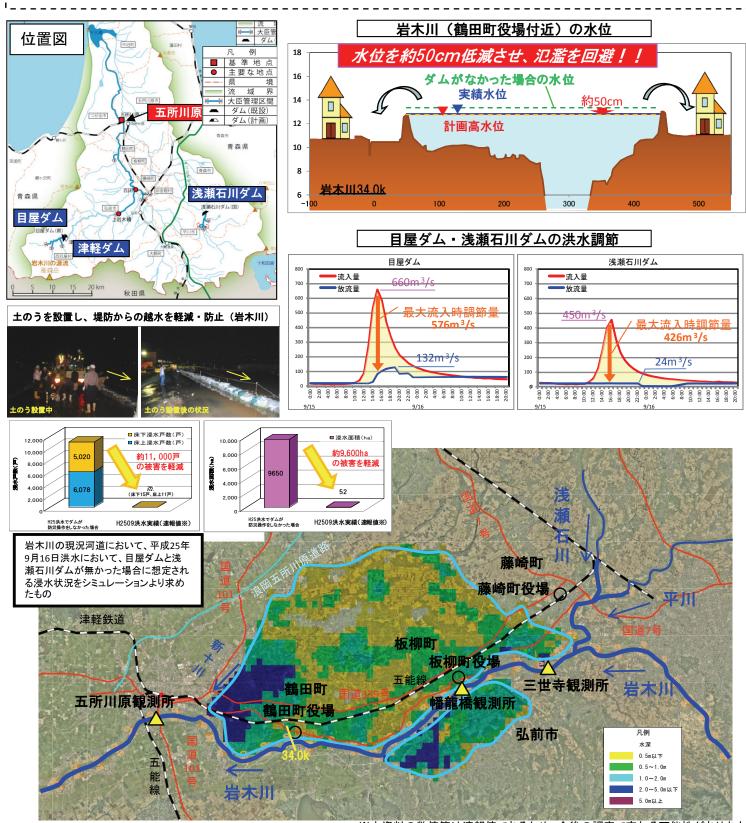
日吉ダム(水資源機構)の洪水調節効果:台風18号による出水



ぁせいしがわ 浅瀬石川ダム(東北地方整備局)・目屋ダム(青森県)の洪水調節効果:台風18号による出水

〇台風18号による豪雨では岩木川流域で大規模な出水が発生。 特に浅瀬石川ダムには、これまでの最大流入量となる450㎡/sが流入。 〇浅瀬石川ダム及び目屋ダム(青森県)の洪水調節と土のう積みにより、 下流の鶴田町・板柳町、弘前市で浸水被害を防止。

◇仮にダムが整備されていなければ、計画高水位を大きく上回る出水となり、沿川市街地等へのはん濫により、約11,000戸の浸水、約1,900億円の被害が発生していたと推定。



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

しじゅうしだ 四十四田ダム(東北地方整備局)の洪水調節効果:台風18号による出水

〇台風18号による豪雨では北上川上流域において大規模な出水が発生。 特に四十四田ダムにはこれまでの最大流入量となる1,468㎡/sが流入。 〇四十四田ダムおよび御所ダムの洪水調節等によって下流河川の水位低 減を図り、下流の盛岡市で浸水被害を防止。

○仮にダムが整備されていなければ、計画高水位を大きく上回る出水となり、盛岡市街地へのはん濫により、約7,500戸の浸水、約3,200億円の被害が発生していたと推定。

〇四十四田ダムでは約3,200m<sup>3</sup>の流木も捕捉。下流での流下阻害や取水の障害など、流木による二次的被害の軽減にも貢献。



あぶがわ 阿武川ダム(山口県)の洪水調節効果:前線による出水

